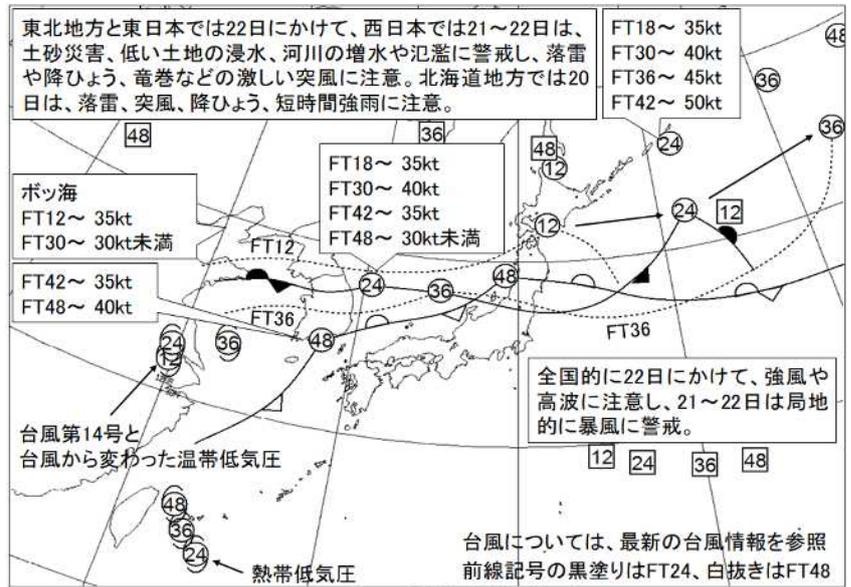


1. 実況上の着目点

- ① 台風第14号は、華中付近を北西進。台風に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では、強い雨を解析。台風と太平洋高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風が吹いて、しけている所がある。
- ② 500hPa 5640m 付近のトラフに対応する低気圧が日本海北部を東進、近傍で雷を検知。
- ③ 500hPa 5820m 付近の強風軸に対応してボツ海から日本海にのびる前線に向かって①の台風周辺から下層暖湿気が流入、日本海では活発に発雷、激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項③の台風第14号は、20日は華中をゆっくり北上、21日は黄海に進み、前線に取り込まれ温带低気圧に変わる。また、20日夜までに沖縄の南で発生する熱帯低気圧が、21日は東シナ海に進む。台風や熱帯低気圧周辺の下層暖湿気の影響で、南西諸島では21日にかけて大気の状態が不安定となる。落雷、突風、短時間強雨に注意。また、太平洋高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、南西諸島と西日本の太平洋側では、強い風が吹いて、波が高くなり、しける所がある。強風や高波に注意。
- ② 1項②のトラフと対応する低気圧は、20日は北海道地方を通過し、千島近海へ進む。これらの影響で、北海道地方では20日は大気の状態が不安定となる。また、低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて波が高くなる。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨、強風や高波に注意。
- ③ 20日は、1項③の前線上に朝までに発生する低気圧が津軽海峡付近を通過して日本の東へ進み、前線は22日にかけて東北地方から東日本の日本海側に停滞する。前線や低気圧に向かって、2項①の台風や太平洋高気圧縁辺を回る下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。東北地方と東日本では22日にかけて、西日本では21~22日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。また、2項①の台風から変わる温带低気圧は、21~22日は発達しながら日本海沿岸を東北東進する。西~北日本の日本海側では非常に強い風が吹き、しける所がある。強風や高波に注意、局地的には暴風に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量(06時から24時間)：東北・北陸150、九州北部120mm。
- ②波浪(明日まで)：九州北部・沖縄4、北海道・関東甲信・北陸・中国・四国・九州南部・奄美3m。
- ③高潮(明日まで)：大潮の時期。全国的に注意報基準を超過し、西日本で警報基準に近づく所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「大雨と雷及び突風に関する全般情報」を5時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。